

日常生活と税金の関係

大鰐町立大鰐中学校 2 年

下山 凜久

学校の中や日常的な会話でよく聞く「税金」。

ぼくは税金と普段の生活にはどのようなつながりがあるのかを調べてみました。

まずぼくは親が働いてできたお金はどこに行くのかを母に聞いてみました。母は、「詳しいことは分からないが国へと送られ、病院や学校などの施設に使われている」と言っていました。

次に自分自身で税金について調べてみました。税金とは年金・医療などの社会保障・福祉や、水道、道路などの社会資本整備、教育や警察、防衛といった公的サービスを運営するための費用を賄うもので税金は、みんなが互いに支え合い、共によりよい社会を作っていくために必要なものだと分かりました。税金は国民みんなで出し合っていてみんなの努力や時間と手間が詰まったものだと思います。

そして、税金にはたくさんの種類があり、主に所得税、法人税、消費税などがあります。

所得税とは、個人の所得に対してかかる税金で、会社からもらう給料や、自分で商売して稼いだお金などにかかる税金のことです。だから、親が働いてできたお金は所得税で税金になるということが分かりました。

次に法人税です。法人税とは、法人の企業活動で得た所得に対して課せられる国税のことで、法人に関連する税金は、法人税のほかに法人事業税、法人住民税があり、これらをまとめて「法人税等」と呼びます。また、法人とは、法律によって人と同じ権利や義務を持つことが認められた組織や団体を指すものです。

最後に消費税です。消費税とは、商品・製品の販売やサービスの提供などの取引に対して広く公平に課税される税のことで、消費者が負担し事業者が納付して、生産、流通などの各取引段階で二重三重に税がかかることのないよう、税が累積しない仕組みが採られているそうです。消費税は 1989（平成元）年に最初 3 % で導入されてから、1997（平成 9）年には 5 %、2014（平成 26）年に 8 %、そして 2019（令和元）年 10 月から 10 % とどんどん税金が引き上げられてきました。なぜ引き上げられていくのかというと、日本は速いスピードで高齢化が進んでおり、高齢化に伴う社会保障の費用は増え続け、税金や借金に頼る分も増えてきているからです。また、社会保障制度を次世代に引き継ぎ、全世代型に転換するためという理由もあります。また、約 70 兆円の税収（2023 年度予算）の内訳をみると、消費税が 33.7 % で一番多くなっています。

税金を詳しく調べて、医療や教育などの生きていくうえで大切なことに使われていると知り、税金で国や国民を守ってくれているんだと分かりました。これからは税金にさらに興味をもち、普段の生活にもっと感謝をもって過ごしていきたいです。